

#### 4. インファントマッサージの有用性に関する客観的評価方法の検討

看護学専攻 山崎真紀子, 宮下 弘子

##### <研究の動機 (背景)>

タッチケア, インファントマッサージ, ベビーマッサージ等, 早期から親子の肌と肌のふれあいを通して良好な親子関係形成を支援する方法が各種提唱されている。現在これらを紹介する取り組みがあちこちでなされているが, その効果を客観的に評価する方法についてはまだ報告が少ない。

##### <目的及び方法>

インファントマッサージの効果を客観的 (かつ実践的) に評価する方法を検討する。

WEB版医学中央雑誌を用いて, タッチケア, ベビーマッサージ, インファントマッサージのキーワードで1999年～2003年の5年分の文献を検索し, 5年分原著論文を中心に評価方法を概観し, より実践的, 客観的な評価方法を検討した。

##### <現在までの経過>

上記のキーワードで抽出された論文は91件であったが, 大半が会議録, 解説であり, 原著論文は4件のみであった。それらに示された評価方法は, 小児の変化を評価するものと母親の変化を評価するものに分けられた。小児の変化を評価する指標としては, 尺度を用いた発達検査, 体重, 脈拍・呼吸・体温等であった。母親の変化を評価するものとしては, 日本版STAIや日本版ボムスを用いたもの, 感想や効果を自由記載で問うたもの, ビデオカメラを用いた行動観察等であった。客観的評価方法は行動観察のみであった。そこで行動観察の視点から新たに文献等を検索したところ, 橋本らが開発した「低出生体重児と親における関係性の発達モデル」が抽出された。我々はこの論文中で紹介されている「マザリース (母親語)」に着目した。マザリースは, まだ十分言葉を話すことができない乳幼児に対して, 母親などの養育者が「語りかける言葉」をさす。マザリースは母子関係をみる際に母親の行動の中で最も具体的かつ客観的な解析の対象になりうる行動とされている。マザリース音声の音響的特徴は, 1) 基本周波数の変化, 範

囲の拡大, 2) 基本周波数の上昇, 3) 発話速度の低下, 4) 語尾の上昇パターンの増加, 5) 繰り返しの増加, の5点である。松村らは、学生と乳児の接触場面の音声分析を行い、乳児との接触経験のある群ではマザリースの発現傾向が強かったと報告している。この手法を用いて母から子への声の働きかけを音声分析することで、インファントマッサージの効果としての良好な親子関係形成の客観的評価ができるのではないかと考える。

今後、松村らの研究室を訪問し、どのような方法でデータ収集、分析を行っているのかについて情報収集を行う。ICレコーダーと音声分析ソフトを用い、松村らが行ったのと同様の方法で、追試を行う。学生を被験者として基礎的実験を行い、どのような状況で我々が期待する音声分析が可能かを検証する。